
卸売業・小売業

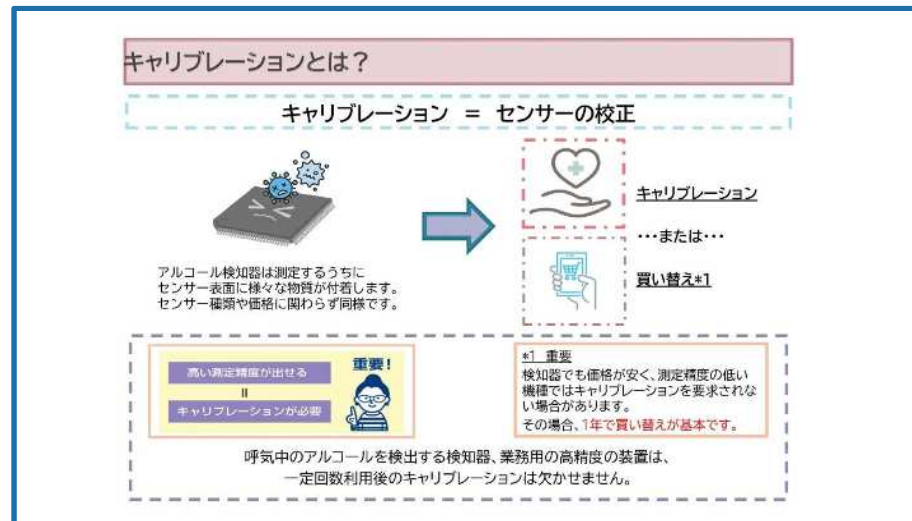
8. アルコール検知器で飲酒運転撲滅とSDGsを目指す！(有限会社ドリームチーム)

取組の概要

あなたの悩みを世界の知恵で解決する。を合言葉にお悩み解決商品とサービスを提供。交通安全・飲酒運転事故撲滅に向けアルコール検知器拡販及び飲酒運転管理サポートを行う。取り扱う検知器は清掃・整備・校正しリユースに努めている。

取組を始めた動機・課題

一般的にアルコール検知器は使用を続けるとセンサーの校正が必要。携帯型では現状、校正せず1年程で使い捨てとする検知器が多く、電池はまだ使えるにも関わらず使い捨て+買い替えが発生している。



解決に向けた具体策と成果

メンテナンスとリユースのサービスを導入。センサー校正により高い測定精度を維持し、購入後長期使用できる仕組みを構築。リユースにより、アルコール検知器を必要としている企業への検知器提供に繋がり、高精度検知器を用いた飲酒運転事故撲滅とごみの廃棄削減を目指す。

該当するSDGs目標
(3つまで)



9. リユーストナーカートリッジで、誰でもできる脱炭素・SDGs活動（原貿易株式会社）

取組の概要

レーザープリンター用のトナーカートリッジのリユースを推進し、使用してもらえる企業・団体を募集している。CO2削減・プラ削減・コスト削減が可能なリユーストナーカートリッジで、誰でも「できることから」脱炭素・SDGs活動に取り組めることを広く発信し、企業のSDGs活動に貢献している。

取組を始めた動機・課題


当社は、リユーストナーカートリッジ事業においてCO2やプラスチック削減を通じSDGs活動をいち早く行ってきた。リユーストナーカートリッジがSDGs活動に役立つことを広く知ってもらい、多くの企業・団体等に利用していただきたいと考えた。


解決に向けた具体策と成果


リユーストナーカートリッジについての情報発信に注力している（リーフレットの作成配布、講演会での発表を通じた神奈川県や横浜市との連携）。脱炭素やSDGsに取り組む企業として当社の評価が高まり、新規ビジネスの機会創出にもつながった。他の企業・団体のSDGs活動にも貢献している。

誰でもできる脱炭素・SDGsの取り組み
～プラ削減にも役立つリユーストナーカートリッジの活用～
私たちは、印刷で脱炭素とプラ削減を目指しています

リユーストナーカートリッジは、使用済みの純正トナーカートリッジを回収し再利用した製品です。

 リユーストナーカートリッジを1本使用すると、新たにカートリッジを製造するのに比べ、CO2排出量を少なく見積っても3.4kg(*)削減できます。
(※) A3モノクロー体型の場合

 トナーカートリッジは、必要な部材だけを交換し、トナーを充填することで生まれ変わります。新たにカートリッジを製造するのに比べ、プラスチック使用量が少なく、使うだけでプラ削減につながります。



しかも、リユース品の価格は純正品の約半分。
AICB調べ

にも有効！

該当するSDGs目標
(3つまで)



10. 横浜発！「濱帯（はまおび）」プロジェクト（株式会社ワンスレッド）

取組の概要

開港以来スカーフやハンカチの産地として培われた横浜の縫製・染技術を活用し、綿100%で1枚布の「濱帯（はまおび）」を作ります。さらに、1枚布を使ったおんぶや抱っこ、防災、生活の知恵などを共有するコミュニティを開催し、地域間交流や多世代交流の場を設け、地域と人の活性化を目指します。



取組を始めた動機・課題

共働きが当たり前となり、夫婦共に家事育児をする時代。地域で子育てをサポートするきっかけとして、多世代コミュニティの接点として、昔ながらの「1枚布」に着目。様々な用途があり使い切ることができる1枚布を通じ、男性の家事育児推進と地域産業活用、地域交流を深める取組をスタートします。

解決に向けた具体策と成果

濱帯は生地のカットから縫製まで横浜市内で行います。パッケージ等の軽作業は地域活動支援センターに依頼し、地域社会での共生を目指します。また市内の子育て支援団体等と連携し、使い方講座や親子で参加できるイベントを開催。情報交換や悩み相談ができ、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

該当するSDGs目標
(3つまで)



58. ワークショップでリサイクル意識の啓発を（株式会社高部金属）

取組の概要

小学生の児童を対象に、飲料容器のリサイクルに関するワークショップを開催し、リサイクルとSDGsへの意識啓発を行ったことで、児童ならびに保護者のSDGsへの意識が高まった。



取組を始めた動機・課題

かつての活動よりも多くの方へリサイクルの意識啓発を行い、今後は積極的に分別を行ってもらえるよう取り組みを始めた。広く意識啓発を行うにあたり、複数箇所でワークショップを開催する為の場所の確保とより多くのワークショップ対象者の確保が課題であった。

解決に向けた具体策と成果

かながわSDGsパートナーへ登録している、株式会社明日葉様へ連携を申請、明日葉様の運営する学童施設にてワークショップを開催した。

課題であった開催場所・対象者の問題をクリアし、取組を行う事が出来た。

該当するSDGs目標
(3つまで)



59. 体験型SDGs 「ボランティア塗装」 （ヤブタ塗料株式会社）

取組の概要

「ボランティア塗装」として、指導者と塗料を提供し、地域の生徒や児童、保護者にも参加してもらい、学校など公共性のある施設の塗り替えを行っています。「塗装＝ものを長持ちさせる」という説明と同時に、実際に楽しく経験してもらうことで、資源を大切にすることを啓蒙効果強化しています。



取組を始めた動機・課題

ものを長持ちさせるには、塗料の力が必要。塗料業界として、SDGsへのこの大きな役割をしっかりと伝えたいと思い始めました。課題として、日常生活では、塗料の役割を認識しにくい点や資源や物を大切にする精神を本当に実感させることの難しさがありました。

解決に向けた具体策と成果

座学と同時に、実際に作業に携わることで、塗料による保護の仕組みを理解し、愛着をもって、ものを大切にする精神につなげた。さらに、参加してくれた児童・生徒には、使い捨てではなく、「塗り替えによって長く使うことができる」という発想も生まれる。

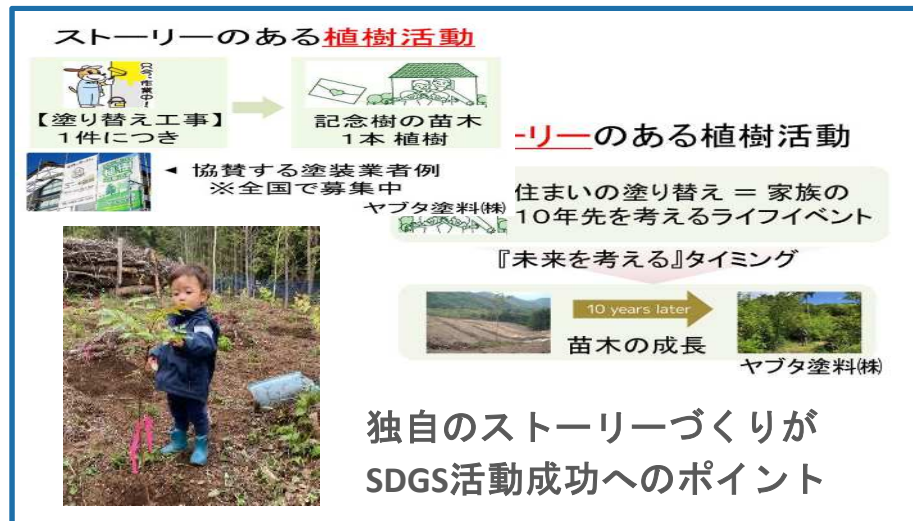
該当するSDGs目標
(3つまで)



60. 塗料業界ならではのストーリーのある植樹活動（ヤブタ塗料株式会社）

取組の概要

住まいの塗り替え工事1件につき、記念として苗木を1本植樹。お施主様をオーナーとして証明書をプレゼント。想いに賛同を得て、全国の塗料販売店、塗装業者とともに活動。ただの植樹で終わらせず、業界ならではのタイミングや仕組みを考え、持続性・発展性・啓蒙性を担保しています。



取組を始めた動機・課題

塗料は、実は住まいの建材を保護することで環境保護につながっている。業界を代表して、環境保全活動への想いを伝えるため、「植樹活動」という形で取り組みを始めました。課題は、活動コスト（時間・費用）と植樹や苗木への思い入れの強化・啓蒙の難しさ。

解決に向けた具体策と成果

NPO法人の「プレゼントツリー」という仕組みを利用して経済活動と環境保全活動を両立。「家族の未来を考える」住まいの塗りかえのタイミングで植樹することで啓蒙活動につなげる。全国の販売店、塗装業者とともに活動することで発展性を確保。

該当するSDGs目標
(3つまで)

